

安武留美先生のご退職によせて

著者	中谷 健太郎
雑誌名	甲南大學紀要. 文学編
巻	172
ページ	57
発行年	2022-03-30
URL	http://id.nii.ac.jp/1260/00004191/

安武留美先生のご退職によせて

英語英米文学科教授 中谷 健太郎

安武留美先生は、2022年3月末をもって甲南大学文学部の教授を退任されます。先生は1981年3月に同志社大学文学部文化学科を卒業され、その後アメリカに渡り、1984年5月にテキサス大学オースティン校アメリカ研究科で修士課程を修了されました。その後カリフォルニア大学ロサンゼルス校に進学され、1994年6月に同校より歴史学の博士号（Ph. D.）を授与されました。

甲南大学には2002年4月に助教授としてご着任になり、3年後の2005年4月からは教授として勤められ、通して現在まで20年にわたって本学にて研究・教育にあたっていられています。2008年4月より2009年3月まで、また2016年4月より2017年3月まで大学院人文科学研究科英語英米文学専攻主任を務められ、そして2011年4月から2012年3月まで文学部英語英米文学科主任を歴任されました。また教務部委員会、広域副専攻センター運営委員会、自己点検評価・施設設備関係実施委員会、人文科学研究科委員会など多数の委員会の構成委員を務められました。

先生は文学部英語英米文学科におけるアメリカ文化部門担当として、「英米文化文学入門」および「アメリカン・スタディーズ」という本学科における基幹授業の一つをその創始から長年担当され、米国史、女性史、移民史など、今なお現代的なテーマについて講義されてきました。また共通科目として「越境する文化と文学」「融合フォーラム（ジェンダー）（ジェンダー論）」といった科目を通して全学教育にも大きな貢献をされました。演習科目として「基礎演習Ⅰ,Ⅱ」「セミナーⅠ,Ⅱ」「卒業研究」などにおいて、きめ細かな指導を通して数多くの優秀な卒業生を送り出しました。

大学院教育においても「英米文化演習」「英米文化特殊講義」を通して修士課程修了生を世に送り出しました。

先生のご研究はアメリカにおける女性史および移民史に関するもので、大国におけるマイノリティの権利運動に焦点を当てています。2004年にはNew York University Press よりご著書 *Transnational Women's Activism: The United States, Japan, and Japanese Immigrant Communities in California, 1859-1920* を上梓されました。また書籍『アメリカ史研究入門』（山川出版社、2009年）やJohns Hopkins 大学が出版する学術雑誌 *Journal of Women's History* などをはじめ、さまざまな国内外の出版媒体に多数の論文を出版されています。

科学研究費助成事業においても、「アメリカのグローバル化と環太平洋地域の女性運動」（2021-2015年度）、「環太平洋地域のトランスナショナルな女性ネットワークとハイブリッドな女性たち」（2018-2021年度）といった課題で研究代表者として採択され、特に女性史の研究分野に多大な貢献をされており、その研究結果をもとに本学の学生・院生を良く導いてくださいました。

このように、先生は学術上の功績はもちろんのこと、甲南大学文学部英語英米文学科において20年にわたり多大な貢献をされました。2022年3月での退任は定年を待たずしての早期のご退職となり、学科としては惜別の思いにたえないところですが、先生のご事情もありと伺っております。先生には心より感謝を申し上げます。今後のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。